

香川大学サテライトセミナー 第24回イキイキサメキ健康塾

がんが肺に転移した！？ 進歩する肺がん治療

日時：平成29年4月16日（日）11:00～12:05

場所：レッツホール（高松丸亀町壱番街東館4階）

内容：がんが肺に転移した！？ 新婦する肺がん治療

講師：香川大学医学部付属病院 呼吸器外科

助教 垂水晋太郎

内容：

○プロフィール

- ・2015年から香川大学付属病院
- ・医学博士、外科学会の外科学専門員、呼吸器専門員、肺ガン地域検診認定医など多数

○はじめに

- ・日本人の三人に一人はガンで死亡。
- ・**男性の63%、女性の47%はがんにかかる。**
- ・生涯でガンで亡くなる方は、男性で25%、女性で16%。
- ・日本では長寿命化が進んでいるので、ガンで亡くなる方が割合として増えている。

○治りにくいガンも（5年生存率）

- ・前立腺ガンは97%、乳ガンは92%の方は生存している 治りやすいガン
- ・肝臓ガン33%、**肺ガン31%**、膵臓ガンは8%と**治りにくいガン**。

○なぜ、ガンになる

- ・人間は37兆個の細胞。細胞は日々入れ替わっている。日々コピーが続いているが、毎日5千個がミスコピーとなっている。
- ・しかし、免疫力や、ガン細胞そのものの生存しにくさから、全てがガンになるわけではない。
- ・親から子へ遺伝するガンはごく一部 **全部の5%以下が遺伝するガン**

○ガンの原因は

◇危険因子の多くは生活習慣

- ・喫煙
- ・塩分のとりすぎ
- ・野菜・果物不足
- ・熱すぎる食べ物や飲み物
- ・動物性脂肪
- ・飲酒
- ・肥満 など

◇慢性感染が原因となるガンも

- ・胃ガン ヘリコバクター・ピロリ菌

香川大学サテライトセミナー 参加費無料・事前申込不要
香川大学医学部附属病院 医療セミナー

第24回 イキイキサメキ健康塾

— 香川大学病院と最新医療 —

日時 平成29年 **4月16日** (日) 11:00～12:00

場所 **丸亀町レッツホール** (高松丸亀町商店街)
高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町壱番街東館4階

内容 **がんが肺に転移した!?**
進歩する肺がん治療

先着50名 (参加費無料・事前申込不要・どなたでも参加可能)
※人数が超過した場合、入場をお断りすることがあります。

講師 香川大学医学部附属病院 呼吸器外科
助教 **垂水 晋太郎**

“がんで恐ろしいのは『転移』” このような言葉をお聞きになったことがあるかも知れませんが、多くのがんは肺に転移することがあります。転移をおこしたがんは進行がんであり、確かに完全に治る確率はまだまだ高くはありません。しかしながら、新たな抗がん剤の登場などにより、治療成績は向上しています。今回はがんについての一般的なお話から、肺に転移した時の治療方針など、さらには肺がんの最新の治療もあわせてお話しさせていただきます。

※次回以降の開催予定 (会場：丸亀町レッツホール・高松丸亀町商店街 11:00～12:00)
・5月21日(日) 循環器内科(村上)、6月18日(日) 講師未定
・7月23日(日) 臨床栄養科(早川)

問合せ先 761-0793
香川県木田郡三木町池戸1750-1
香川大学医学部総務課
電話：087-891-2008 (平日9時～17時)

香川大学医学部附属病院
HAGAKA UNIVERSITY HOSPITAL

- ・子宮頸がん（しきゅうけいがん） ヒトパピローマウイルス
- ・肝臓ガン 肝炎ウイルス B、C型
- ・リンパ腫 EBウイルス など

◇職業暴露などが原因となる発ガン物質

- ・アスベスト
- ・4-アミノビフェニル

○インターネット情報の危なさ

- ・検索で上位に出てくるのは商売によるもの、偏った情報が多い。
- ・国立がん研究センターなど、信頼のおけるサイトの情報を参考に。

○ガン細胞の特徴

- ・ **不死** 細胞が死なない
 - ・ **自立性増殖** 勝手に増え続ける
 - ・ **浸潤** 固定した形を持たず、周りをおかして広がっていく
 - ・ **転移** 他の場所に移っていく 例：大腸に出来たガンが肺に移る
- ・再発：おさまっていたガンがまた出てくること、転移は場所の概念、再発は時間の概念。

○これは何ががん

- ・原発巣（げんぱつせい）：その臓器に発生したガン
- ・転移性腫瘍（てんいせいしゅよう）：他の場所で出来たガンが転移したもの
腫瘍とは、異常増殖する細胞の集まり、できもの。
腫瘍には、良性と悪性がある。転移したという事はガンの特徴を持っているので、悪性を意味する。

○肺の役割

- ・ガス交換：血液の中に酸素を取り込み、不要になった二酸化炭素を排出する。
- ・心臓から全身の様々な臓器に血液が送られ、また心臓に戻ってくる。
- ・心臓に戻った血液は、ガス交換を行うために全て肺を循環する。

○転移の経路

- ・ **直接浸潤**（ちよくせつしんじゅん）：周りに浸潤して広がっていく。
- ・ **播種**：空間の中に広がっていく（胸腔、腹腔）
- ・ **血行性転移**：血液の流れによって広がっていく
- ・ **リンパ行性転移**：リンパの流れによって広がっていく

○肺転移はおこりやすい？

- ・それぞれの臓器から帰ってきた血液が全て肺に流れ込み、毛細血管をくぐり抜けるため、ガン細胞がたどり着きやすい。
- ・大腸ガン32%、頭頸部

○ガンの治療

- ・三本柱：手術、放射線、抗ガン剤
- ・手術：切除可能であれば、最も治療の可能性が高い。
- ・放射線：ガンが広がっていなければ有効。
- ・抗ガン剤：状態にあわせて適切に使用。
- ・緩和治療：ガンによる症状を取り除く。 ← 末期ガンだけでなく、初期のガンから、様々な障害を取り除き、ガンそのものの治療効果を高める
- ・免疫治療：最近新たな展開が。

○現在の治療は

- ・個々の患者さんの状況に合わせて組み合わせる。

○肺転移に対する治療

- ・肺に転移してくるガンは、血行性転移。
- ・肺以外にも病巣が存在するかもしれない。 → 全身に効果が及ぶものが望ましい → 抗ガン剤
- ・大腸ガンが肺に転移しているのなら、大腸がんに最も効果を発揮する抗ガン剤が使われる。

○局所制御

- ・ガン全体に対する治療 → 全身 抗ガン剤治療
- ・ガンが転移した場所に対する治療 → 局所 放射線治療、手術

- ・脳転移：症状が早期に出現し、日常生活の継続が困難。予後にも大きな影響。
- ・骨転移：痛みなどの症状を伴う。骨折の危険性があり、日常生活に支障をきたす可能性。

○手術適用の目安

- ・手術に耐えられる全身状態
- ・原発巣のガンがコントロールされている
- ・他の臓器に転移があっても根治が期待できる
- ・肺にある全ての病巣が取り除ける

○ガン治療における変化

- ・抗ガン剤の治療成績の向上 分子標的薬 生存率50%が70%に
- ・副作用の制御も

○放射線治療の進歩

- ・サイバーナイフ 定位放射線照射 ピンポイントに放射線を当てる
肺や心臓は、呼吸や拍動で動くので難しかった

○手術の進歩：低侵襲（ていしんしゅう）

◇身体への負担を減らす

- ・胸腔鏡手術で傷を小さく
- ・縮小手術：取る範囲を最小限にして肺機能の温存を図る

- ・ **赤外光胸腔鏡**：本来は見えていない肺の境界が見えるようになる

○香川大学での呼吸器外来での治療

- ・ 2000年1月～2017年3月 350例
大腸ガン 3割、肺ガン2割
- ・ 手術後の平均観察期間は40ヶ月
- ・ 手術に伴う大きな合併症なし

○まとめ

- ・ ガンに肺が転移したという事は、ガンが進行している状態。
- ・ しかし、新しい抗ガン剤をはじめとした治療成績の向上が得られている。
- ・ それによって肺に転移したがんに対しても、積極的に治療が出来るチャンスが増えている。

- ・ ガンの治療はチーム力 医師、看護師、家族、ソーシャルワーカー・・・
- ・ 同時にガン治療の専門医の協力体制も重要です。 ← 総合的な大学病院など

○Art、Heart、Science

- ・ 自分の愛する人に行う治療をアート（卓越した技術）、ハート（患者さんの身になって、心をこめて）、サイエンス（科学的根拠）にもとづいて行う。

11:58～12:05 質疑

女性Q：乳ガン 放射線治療をし、経過観察でタンパク質の異常、〇〇をしているが、いつまで続くのか？ どういうものなのか？

A：今はガンが無いだろうけれど、タンパク質を調べるとある程度の可能性で再発するタイプなので、再発予防としての対処を行っている状態と思う。どれほどの期間、再発予防を続ける必要があるかは、ホルモンの状態や身体の状態があり、一概にいつまでとは言えない。

Q：私は81歳になるが、病気は無く、保険証を使わない。治療をしてからは全身に副作用、足が動かなくなるなど、・・・平均して、どれぐらい治療にかかるのか？

A：科学的な平均値はない。乳ガンについての知識がないので、私からは申し上げることが出来ない。

—以上—